

米軍基地から低周波騒音



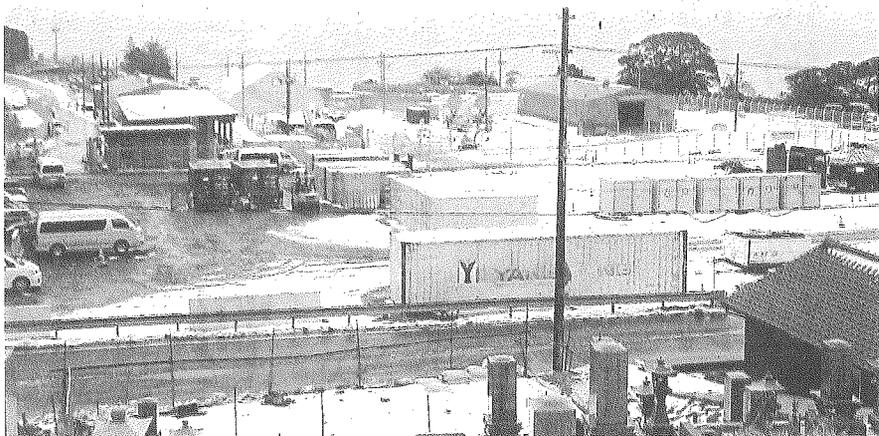
2月21日 土曜日

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co., Ltd. 発行所 〒604-8577 京都市中京区烏丸通夷川上ル

京丹後 参照値を大幅超過 発生源認め防音措置

Xバンドレーダーが配備された米軍経ヶ岬通信所(京丹後市丹後町)の周辺で、低周波が環境省の定める参照値(80ヘルツ帯で41デシベル)を14・2〜33・5デシベル上回っていたことが、京都新聞社が実施した計測で分かった。防衛省が実施した騒音の環境調査でも、「大きく卓越した周波数成分」がみられるといい、基地に設置された発電機が低周波騒音の発生源であることを認めた。米軍は20日までに、発電機6台のうち3台の稼働を停止した。(29面に関連記事)

住民不調訴え



発電機から低周波音が観測された米軍経ヶ岬通信所 (10日、京丹後市)

計測は今年9月、10日、低周波音レベル計を使って袖志地区と尾和地区の計8地点で実施。12・5〜80ヘルツを中心周波数とする3分の1オクターフ分析を行い、1分間の平均値を調べた。北海道大工学研究院の松井利仁教授(環境衛生学)が分析したところ、基地近くの

3地点で80ヘルツ帯に発電機の低周波音の可能性が高い数値が計測された。環境省の参照値は41デシベルだが、基地西隣の九品寺では74・5デシベルに達し、基地近くの国道178号沿いで70・3デシベル、基地から約350メートル離れた屋外で55・2デシベルを記録した。環境省は低周波に関して健康を維持する目安となる環境基準や規制基準を定めていないが、松井教授によると、参照値を30デシベル超えると、多くの人が圧迫や不快を感じるレベルとい

う。米軍基地で発電機が稼働した昨秋以降、近隣の袖志地区などの住民から「騒音でよく眠れない」などの苦情が出ている。近畿中部防衛局によると、同防衛局が2月に入ってから業者が委託した結果、「90ヘルツ付近の低周波に

大きく卓越した周波数成分がみられる」との結果が出たといい、業者が現在、データを分析しているという。米軍は10日、基地で稼働している発電機6台のうち3台に防音マフラーを取り付けた。残り3台については設置が完了する3月上旬まで稼働を停止する方針。

一人に3人 不調

米軍基地騒音アンケート

米軍経ヶ岬通信所(京丹後市丹後町)近くの袖志地区で、昨年秋に基地の発電機が稼働して以降、騒音によ

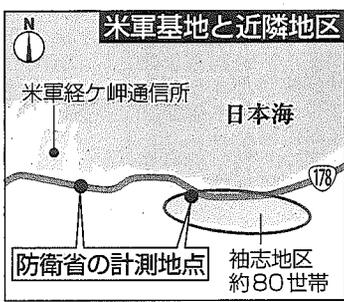
「眠れぬ」「いらいら」



て3人に1人は「よく眠れない」「いらいらする」などの不調を訴えていることが20日、京都新聞社のアンケート調査で分かった。防衛省は発電機稼働に伴う低周波音が原因である可能性を認めており、抜本的な対策が急務だ。(森敏之、宇都寿)

アンケートは9、10日に袖志地区(83世帯)で実施した。基地に近い西側と最も離れた東側の計61世帯を訪問し、聞き取り形式で行った。不在を除く43世帯43人から回答を得た。

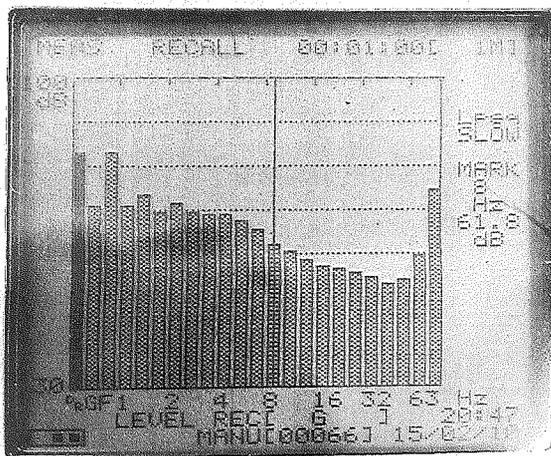
「屋内で音を感じる」とした33人のうち15人が何らかの症状を自覚し、「よく眠れない」との回答が11人で最も多かった。「いらいらする」は9人、「頭痛や耳鳴りがする」(重複回答)も2人いた。



騒音に苦情が出ている袖志地区。右奥が米軍経ヶ岬通信所(10日、京丹後市)

騒音を感じる時間帯は7割が「決まっていない」とし、住民は昼夜を問わず継続的に音に悩まされていたことが判明。また、5人に1人が「夜(午後6〜12時)」「深夜・明け方(午前0〜6時)」と答え、生活音が少なくなると低周波音が気になる住民も一定いることが明らかになった。

「聞こえた瞬間にやる気が出なくなる。1日でも早く音を止めてほしい」と訴えた。米軍は昨年11月に騒音防止用コンテナや吸音パネルを設けたが効果は薄く、近畿中部防衛局は1月下旬に住民説明会を開き、「想定



米軍基地に隣接する地点での測定画面。画面右端の80Hz帯に発電機の低周波音の可能性が高い数値が表示された

「睡眠障害あり得る」

京都新聞社は、米軍経ヶ岬通信所(京丹後市)がある袖志地区と尾和地区の計8地点で低周波音の計測を実施し、基地に近い3カ所で環境省の参照値を超える低周波音を記録。うち基地から約350mで離れた地点では屋外で発電機の可能性が高い低周波音が見られたが、屋内では計測されなかった。それ以外の5地点では低周波音を抽出できなかった。海鳴りと混ざるなどした可能性がある。

データを分析した北海道大工学研究院の松井利仁教授の話。今回の計測では住宅地でも環境省の参照値を超える低周波音が記録された。音を吸収する積雪がなければ、さらに数値は上がったとみられる。低周波音は、睡眠妨害や集中力の低下といった影響が指摘されている。参照値を超える低周波音を3カ月間も受け続けたとすると、睡眠障害と診断される人が出てもお不思議ではない。

昨年11月には、地元住民から「よく眠れない」などと騒音に対する苦情が上がっていた。発電機を早期に停止するなど対策を講じるべきだった。

外だった」と騒音発生を謝罪している。袖志地区の太下教夫区長(65)は「10年、20年後も村を存続させるためには(基地建設の容認を)せざるえないと、みんな懸命に協力したのだが。今は信用できなくなった」と語った。

要望書では、発電機から昼夜発生する騒音は受け入れの前提である市民の安心安全を著しく脅かすとして、速やかに効果的な騒音対策を実施することや、商用電力への切り替えを早急に検討し、責任ある対策を行い住民の信頼回復に努めるよう求めている。

20日までに発電機3台に防音マフラーが設置され、残り3台の稼働はマフラー設置まで停止した。太下区長は音はかなり小さくなったと感じているが消えてはいない、とする。「6台が稼働した時に騒音がどうなるか分からない、不安はある」と話している。

「速やかな対策を」
防衛局に要望書
京丹後市会特別委

市議会事務局によると、吉岡和信委員長と藤田大副委員長が松本局長に面会して手渡したという。